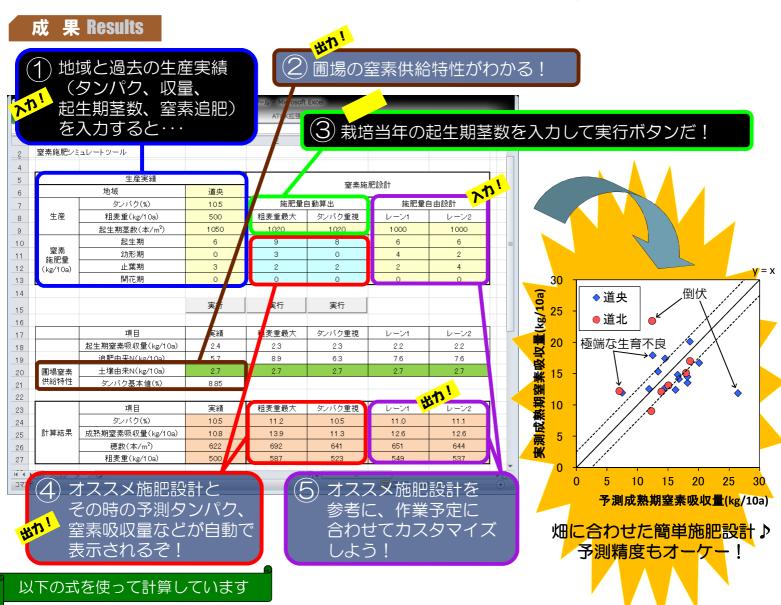
Central Agricultural Experiment Station

道総研

過去のデータから 「きたほなみ」の最適施肥量がわかる!

概 要 Abstract

過去の収量・子実タンパクなどの生産実績を活用し、近接圃場で秋まき小麦「きたほなみ」を栽培する際の最適な窒素施肥量を求める「窒素施肥シミュレートツール」を開発しました。



											<u>'</u>	
項目	道央				道北				道東			
成熟期窒素吸収量(kg/10a)	収量(kg/10a)/(-5.1907×タンパク(%)+100.41)											
起生期窒素吸収量(kg/10a)	0.0029×起生期茎数(本/m²)-0.6828				0.0030×起生期茎数(本/m²)-0.9879				0.0024×起生期茎数(本/m²)-0.9773			
穗数(本/m²)	299+0.190×起生期茎数(本/m²)+16.5×起生期追肥(kg/10a) +11.6×幼形期追肥(kg/10a)+8.1×止葉期追肥(kg/10a)				191+0.133×起生期茎数(本/m²)+11.6×起生期追肥(kg/10a) +17.8×幼形期追肥(kg/10a)+9.9×止葉期追肥(kg/10a)				設定なし			
追肥時期	起生	幼形	止葉	開花	起生	幼形	止葉	開花	起生	幼形	止葉	開花
施肥窒素利用率(%)	62.9	63.6	65.0	59.3	54.5	55.7	52.7	54.8	65.0	64.1	64.3	50.1
タンパクト見値(point/kgN)	0.14	0.10	0.27	0.24	0.15	0.10	0.30	0.20	0.14	0.10	0.26	0.25

普及 Dissemination

- 1. 「きたほなみ」の最適な追肥量・配分の決定に活用することで、安定生産が図られます。
- 2. 生育管理ツール(MS-Excelファイル)をHPで公開予定です。
- 3. 窒素施肥シミュレートには、病害や倒伏の多発した時あるいは圃場管理が現在と大きく 異なっていた時の生産実績は使用できません。

連絡先 Contact

中央農業試験場 農業環境部 栽培環境グループ 0123-89-2001 (代表) central-agri@hro.or.jp